

資料 1 地域の概況

1 市の概要

(1) 位置

津島市の位置及び面積は、図 1-1 に示すとおりです。

愛知県の西南部に位置し、東は名古屋市に、西は木曾川を隔て岐阜県及び三重県に近接し、南は伊勢湾が広がっています。

また、ごみ処理の円滑・効率化を目的に設立された海部地区環境事務組合が図 1-1 に示す 4 市 3 町村によって構成されています（あま市については旧甚目寺町を含みません）。

津島市面積	25.08km ²
-------	----------------------

出典：平成 23 年全国都道府県市区町村別面積調（国土地理院 平成 23 年 10 月 1 日現在）

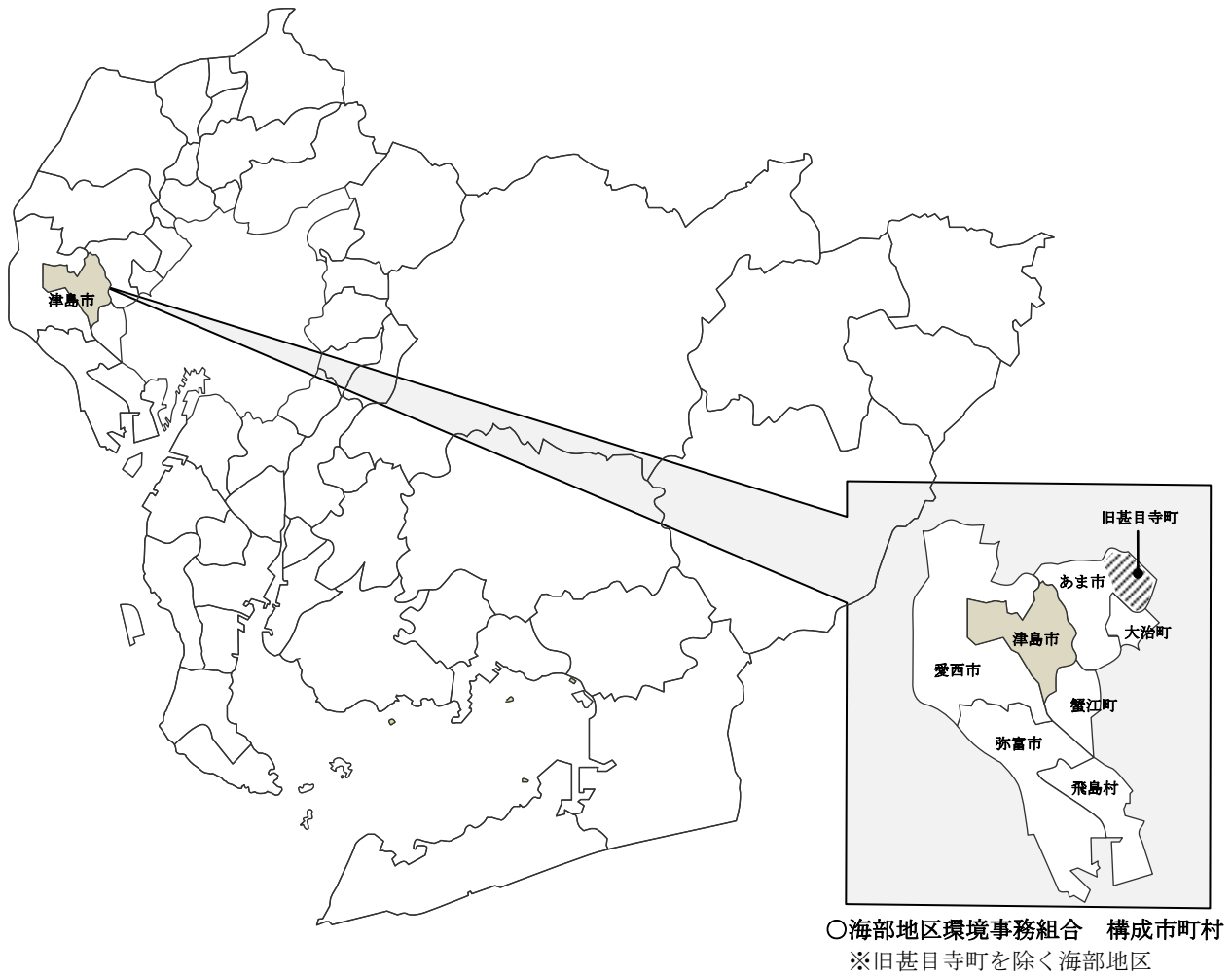


図 1-1 津島市の位置及び面積

2 自然条件

(1) 地象・水象

濃尾平野の西部に位置するため平地が多く、地質は木曾川、長良川、揖斐川の三川によって堆積された沖積層からなる三角州平野で、地形的には市域のほとんどが起伏の少ない海拔ゼロメートル以下の低地です。

また、中央部を南北に縦断する天井川である日光川をはじめ、日光川水系の河川がいくつか流れており、集中豪雨時には浸水被害に悩まされているのが現状です。

市域には田畑が多く、様々な野鳥や植物を見ることができます。天王川公園周辺では、春の桜、初夏の藤、秋の紅葉、冬の雪景色といった四季折々の自然の情緒を味わうことができます。

(2) 気象

最寄りの地方気象観測所である愛西観測所における平成23年の気温と降雨量を表1-1及び図1-1に示します。

気候は春・秋は過ごしやすく、夏は高温多湿で蒸し暑く、冬は北西の風が強く吹きます。

降雨量は、9月が最も多く378.5mm、次いで5月の359mmとなっており、冬季から春季にかけては、降雨量が少なくなっています。

表 1-1 気温と降雨量（平成 23 年 愛西観測所）

観測所	単位	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
気温	最高気温	℃	9.6	16.8	18.3	24.0	29.9	36.8	35.6	37.2	34.2	26.5	17.2
	最低気温	℃	-3.5	-2.8	-1.1	1.8	8.5	14.8	20.8	21.4	12.1	7.0	-2.2
	日平均気温	℃	2.3	5.8	6.8	12.3	18.4	23.4	27.3	27.9	24.4	17.9	6.0
月間降雨量	mm	27.5	104.5	30.0	96.0	359.0	190.5	225.5	148.5	378.5	149.5	74.0	34.0

出典：気象庁ホームページ

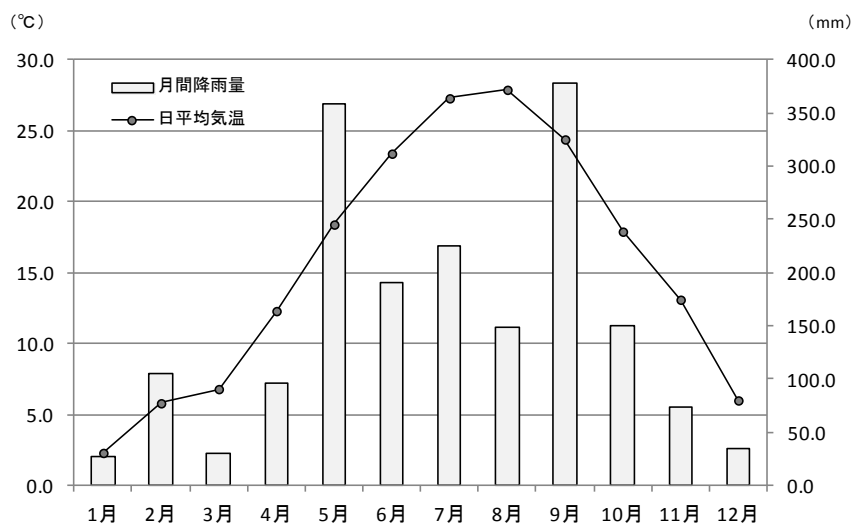


図 1-2 気温と降雨量（平成 23 年 愛西観測所）

3 社会条件

(1) 人口

各年1月1日現在の住民基本台帳登録人口の推移を表1-2に示します。

平成23年人口は65,137人となっており、平成14年からの10年間でほぼ横ばいの傾向を示しています。

その一方で、平成24年世帯数は24,948世帯となっており、平成15年からの10年間で2,087世帯増加し、それに比例して一世帯当たりの人口は減少している傾向が見られます。

表1-2 人口・世帯数等の推移

区分	単位	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
総人口	人	66,601	66,637	66,586	66,600	66,541	66,699	66,970	66,686	66,448	66,137
	男	32,638	32,701	32,654	32,654	32,680	32,743	32,844	32,626	32,554	32,401
	女	33,963	33,936	33,932	33,946	33,861	33,956	34,126	34,060	33,894	33,736
世帯数	世帯	23,300	23,597	23,730	23,975	24,190	24,635	25,184	25,290	25,398	25,546
一世帯当たり人口	人/世帯	2.9	2.8	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6

出典：津島市 人口情報の履歴（各年10月1日現在）

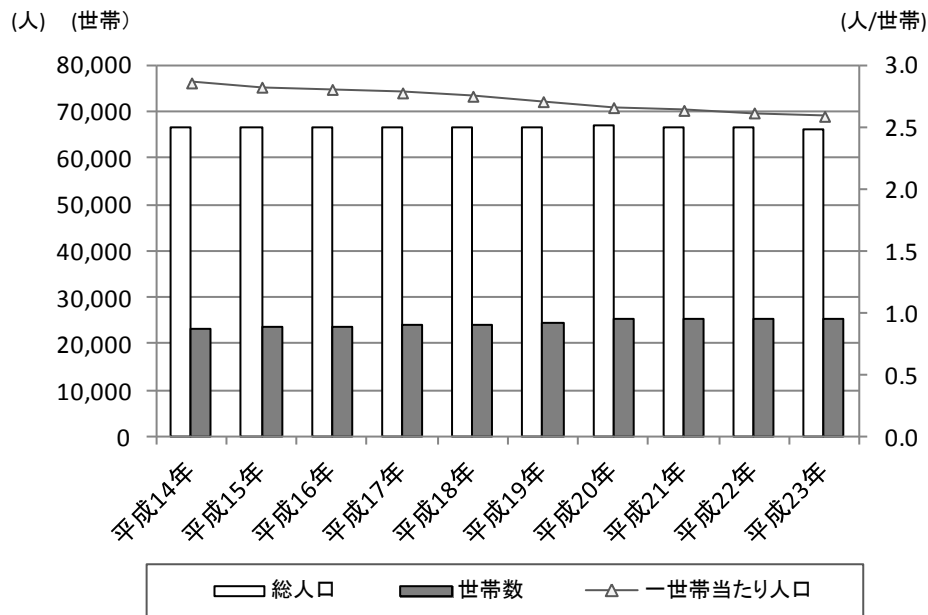


図1-3 人口・世帯数等の推移

男女別及び年齢別の人口は図 1-4、図 1-5 に示すとおりです。

性別でみると、男性は 40～44 歳の人口が最も多く 2,767 人、女性は 60～64 歳が最も多く 2,849 人となっています。

年齢別 3 区分の割合では、65 歳以上が 23.0%、1～14 歳が 14.1% となっており、平成 22 年度国勢調査における愛知県の年齢 3 区分の割合と比較すると、ほぼ同程度の割合であるといえます。

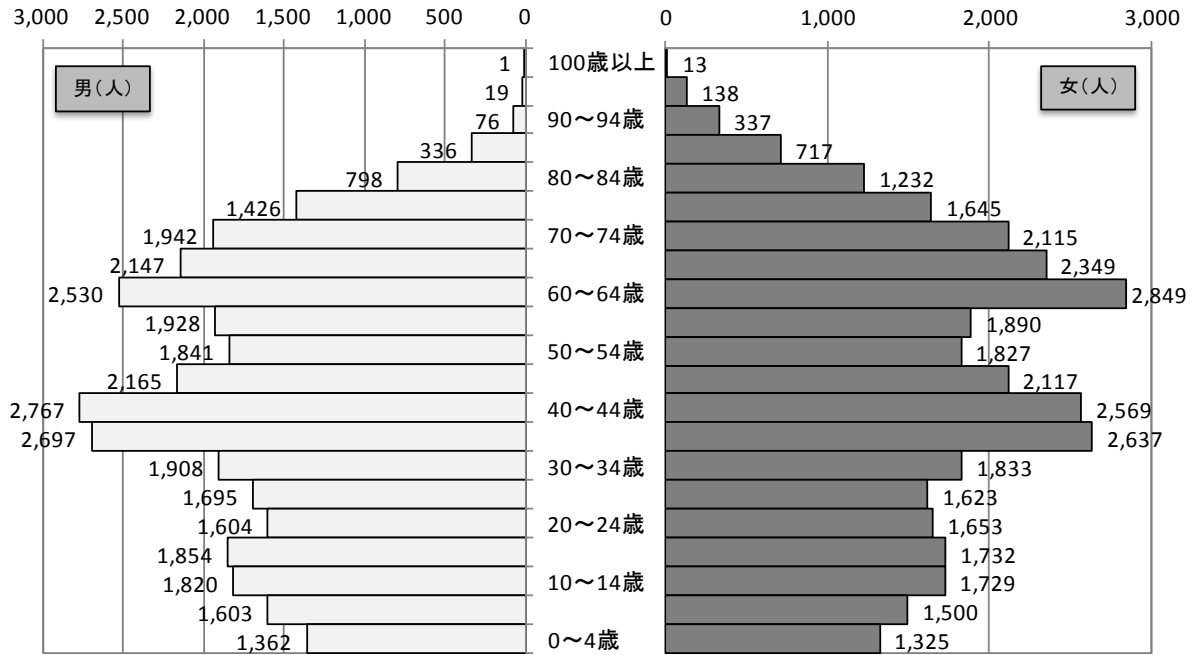


図 1-4 年齢・男女別の人口（平成 24 年 1 月 1 日現在）

出典：住民基本台帳及び外国人登録人口（各年 1 月 1 日現在）

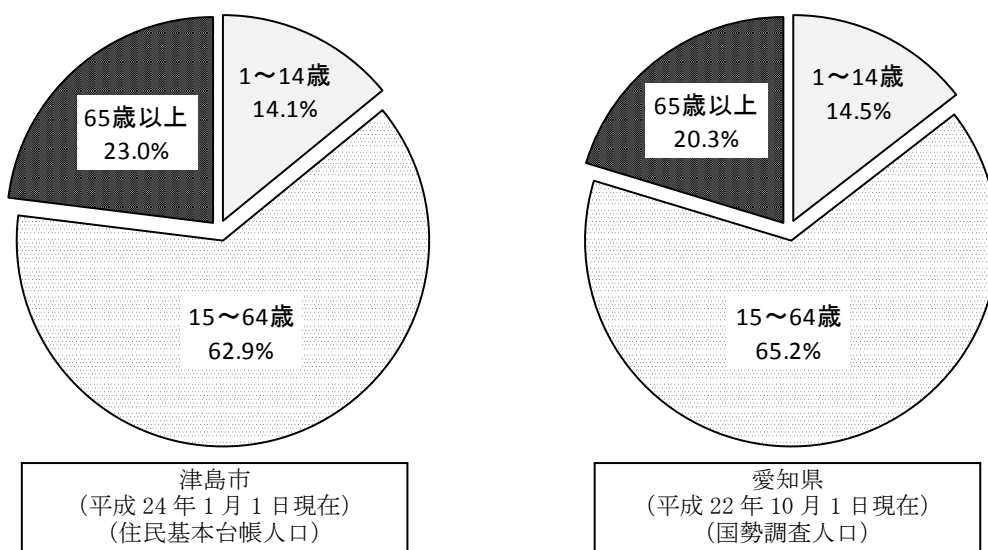


図 1-5 年齢（3 区分）別の人口割合（平成 24 年 1 月 1 日現在）

人口の動向を表 1-3 及び図 1-6 に示します。

平成 14 年から 20 年までは増減を繰り返していましたが、平成 21 年から平成 23 年まで減少傾向を示しています。

平成 23 年の人口増減は 217 人の減少となっており、自然動態では出生より死亡が上回り、156 人減少しています。また、社会動態では転入に比べて転出の方が上回り、結果として 61 人減少しています。

表 1-2 人口動向の推移

区分	単位	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	
人口増減	人	△ 48	183	△ 123	28	△ 1	158	220	△ 205	△ 286	△ 217	
自然動態	人	210	183	136	30	69	7	△ 16	△ 54	△ 41	△ 156	
	出生	人	717	624	646	561	608	528	547	520	453	
	死亡	人	507	441	510	531	539	521	563	574	609	
社会動態	人	△ 258	0	△ 259	△ 2	△ 70	151	236	△ 151	△ 245	△ 61	
	転入	人	2,657	2,768	2,532	2,638	2,671	2,633	2,813	2,500	2,380	2,295
	転出	人	2,920	2,801	2,808	2,634	2,756	2,503	2,580	2,685	2,649	2,384
その他	増	人	68	69	58	28	29	30	29	45	35	41
	減	人	63	36	41	34	14	9	26	11	13	

出典：住民基本台帳及び外国人登録人口

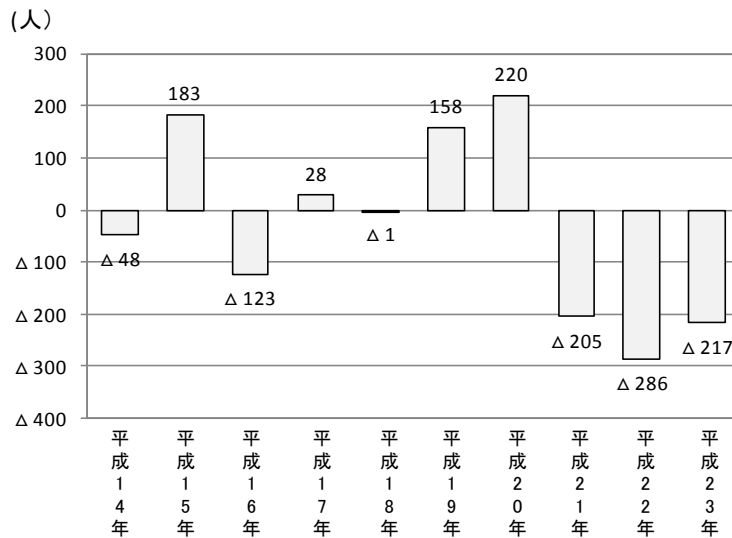


図 1-6 人口動向の推移

平成 17 年の国勢調査における昼夜間人口を表 1-3 に示します。

昼間には 4,808 人が流出しており、昼間人口は 93%の割合に減少しています。

表 1-3 昼夜間人口 (平成 17 年)

区分	夜間人口	流出人口	流入人口	流入超過数	昼間人口	昼間人口比率
単位	人	人	人	人	人	%
平成17年	65,547	20,274	15,466	△ 4,808	60,739	93

出典：国勢調査

(2) 産業の動向

A. 産業（大分類）

産業（大分類）別の事業所数及び従業者数を表 1-4 に示します。

事業所数、従業者数ともに「卸売・小売業」が最も多く、平成 21 年度の結果では事業所数：847 事業所、従業者数：6,626 人となっています。

また、事業所数で 2 番目に多いのが「サービス業（他に分類されないもの）」で平成 21 年度の結果では事業所数：542 事業所となっており、従業者数で 2 番目に多いのが「製造業」で平成 21 年度の結果では従業者数：4,531 人となっています。

表 1-4 産業（大分類）別事業所数及び従業者数

産業（大分類）	平成16年		平成18年		平成21年	
	事業所数	従業員数	事業所数	従業員数	事業所数	従業員数
総数	3,052	23,291	3,158	26,976	3,187	28,528
農林漁業	5	68	6	68	8	124
鉱業	-	-	-	-	-	-
建設業	242	1,479	254	1,571	283	1,876
製造業	466	4,960	440	5,310	423	4,531
電気・ガス・熱供給・水道業	3	95	5	104	6	120
情報通信業	14	95	13	134	19	148
運輸業	33	850	34	826	47	1,386
卸売・小売業	911	6,178	907	6,351	847	6,626
金融・保険業	42	561	38	459	40	594
不動産業	103	227	116	273	161	553
飲食店、宿泊業	408	2,704	387	2,744	376	3,120
医療、福祉	141	2,009	187	3,015	203	3,465
教育、学習支援業	142	633	178	1,368	200	1,328
複合サービス事業	8	109	16	398	12	194
サービス業（他に分類されないもの）	534	3,323	558	3,408	542	3,517
公務（他に分類されないもの）			19	947	20	946

出典：平成 21 年・・・「経済センサス - 基礎調査」（総務省統計局 平成 21 年 7 月 1 日現在）

平成 18 年・・・「事業所・企業統計調査」（総務省統計局 平成 18 年 10 月 1 日現在）

平成 16 年・・・「事業所・企業統計調査」（総務省統計局 平成 16 年 6 月 1 日現在）

注 1) 平成 16 年は簡易検査で対象が民営事業のみのため、公務については不詳としました。

注 2) 平成 18 年以前と平成 21 年以降で、産業分類に変更が生じたため、以下のように平成 18 年以前の資料項目に合わせました。

平成21年以降	変更・統合	平成18年以前
農業、林業	→	農林漁業
漁業		
鉱業、採石業、砂利採取業	→	鉱業
運輸業、郵便業	→	運輸業
不動産業、物品賃貸業	→	不動産業
宿泊業、飲食サービス業	→	飲食店、宿泊業
学術研究、専門・技術サービス業	→	サービス業 (他に分類されないもの)
生活関連サービス業、娯楽業		
サービス業(他に分類されないもの)		

産業（大分類）別の事業所数と従業者数の割合を図 1-7 及び図 1-8 に示します。

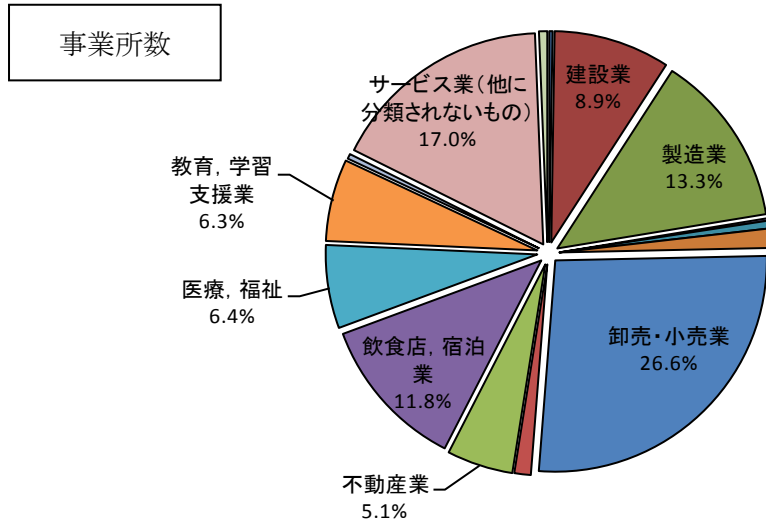


図 1-7 産業（大分類）別事業所の割合
（平成 21 年 7 月 1 日現在）

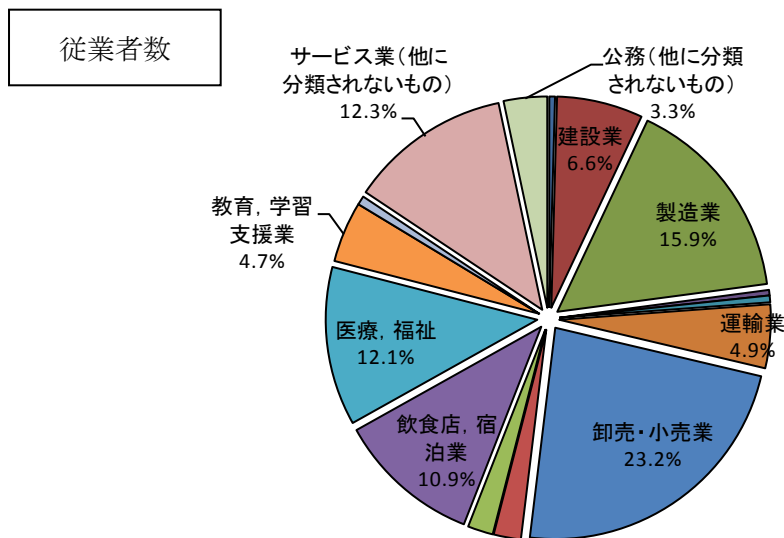


図 1-7 産業（大分類）別従業者の割合
（平成 21 年 7 月 1 日現在）

B. 農業

農家数は表 1-5 に示すとおりです。

平成 17 年から平成 22 年までの 5 年間で、総農家数が 186 戸減少しています。

この内、販売農家数が専業、兼業いずれも減少しているのに対して、自給的農家数が若干増加しています。

また、土地持非農家数が 146 戸増加しています。

この結果から、土地を所有していても農業を行わない箇所が増加していることが考えられます。

表 1-5 農家数

調査年	総農家数 (戸)					土地持 非農家数 (戸)	
	販売農家数 (戸)	自給的農家数 (戸)					
		専業農家	第1種兼業農家	第2種兼業農家			
平成17年	1,128	797	136	70	591	331	386
平成22年	942	600	112	45	443	342	532

出典：農林業センサス

(注) 第1種兼業農家：農業所得を主とする兼業農家

第2種兼業農家：農業所得を従とする兼業農家

経営耕地面積は表 1-6 に示すとおりです。

平成 17 年から平成 22 年の 5 年間でいずれの耕地も減少しています。

表 1-6 経営耕地面積

(各年 2 月 1 日現在 単位：ha)

調査年	総数	田	畑	樹園地
平成17年	726	644	73	10
平成22年	706	636	64	7

出典：農林業センサス

C. 工業

産業中分類別の事業者数、従業者数及び製造品出荷額は表 1-7、図 1-8 及び図 1-9 に示すとおりです。

事業所数、従業者数ともに減少の傾向が見られます。その一方で製造品出荷額は平成 21 年度で大きく減少していますが、平成 22 年度で再度増加しています。

表 1-7 産業中分類別事業者数、従業者数、製造品出荷額の推移

区分	平成18年			平成19年			平成20年			平成21年			平成22年		
	事業所数	従業者数	製造品出荷額	事業所数	従業者数	製造品出荷額	事業所数	従業者数	製造品出荷額	事業所数	従業者数	製造品出荷額	事業所数	従業者数	製造品出荷額
	事業所	人	万円	事業所	人	万円	事業所	人	万円	事業所	人	万円	事業所	人	万円
総 数	208	4,351	7,450,263	202	4,194	7,648,860	205	4,186	8,031,985	194	3,761	6,450,593	182	3,715	7,397,457
食 料 品	10	184	178,845	11	176	170,474	10	179	127,338	9	159	110,776	10	159	117,440
飲 料 ・ 飼 料	2	22	x	2	17	x	2	21	x	2	20	x	2	21	x
織 維	38	418	282,018	34	348	285,159	34	391	259,208	31	346	205,627	28	305	177,650
木 材 ・ 木 製 品	12	204	433,994	11	191	386,923	7	65	149,880	7	59	121,115	5	40	84,775
家 具 ・ 装 備 品	5	48	51,202	7	60	56,637	6	52	55,066	7	58	53,383	9	95	134,494
パ ル プ ・ 紙	6	298	1,033,122	5	261	947,561	5	268	992,873	6	301	1,024,227	6	301	1,015,825
印 刷	4	98	173,746	4	95	196,707	6	123	208,229	5	103	141,171	4	96	125,254
化 学	2	175	x	2	169	x	2	163	x	2	170	x	2	169	x
石 油 ・ 石 炭	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
プ ラ ス チ ッ ク	11	680	1,488,926	10	691	1,802,210	9	696	1,856,603	11	647	1,352,608	10	611	1,707,346
ゴ ム 製 品	1	25	x	2	30	x	2	355	x	2	30	x	2	33	x
皮 革 製 品	4	45	22,092	3	30	16,263	2	25	x	2	26	x	1	13	x
窯 業 ・ 土 石	3	187	369,885	2	180	x	2	174	x	2	128	x	2	159	x
鉄 鋼	4	43	10,900	4	32	9,893	2	9	x	-	-	-	1	6	x
非 鉄 金 属	4	22	15,300	5	34	35,747	7	56	29,425	5	45	20,520	4	43	13,260
金 属 製 品	31	370	459,018	31	357	457,639	32	334	499,045	29	339	369,319	29	338	369,744
輸 送 機 械	16	466	474,030	15	440	582,884	24	519	609,274	22	444	590,507	19	473	773,031
電 気 機 械	7	150	200,363	10	199	205,174	13	235	270,296	12	212	171,869	7	160	140,237
情 報 通 信 機 械	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9	x
電 子 部 品	1	10	x	-	-	-	1	15	x	-	-	-	-	-	-
一 般 ・ 精 密 機 械 及 び そ の 他 の 製 造 業	47	906	x	44	884	x	39	826	2,048,175	40	674	1,530,771	40	684	1,925,291

出典：工業統計調査

(注) 平成 19 年以前と平成 20 年以降で、産業分類に変更が生じたため、以下のように統合しました。

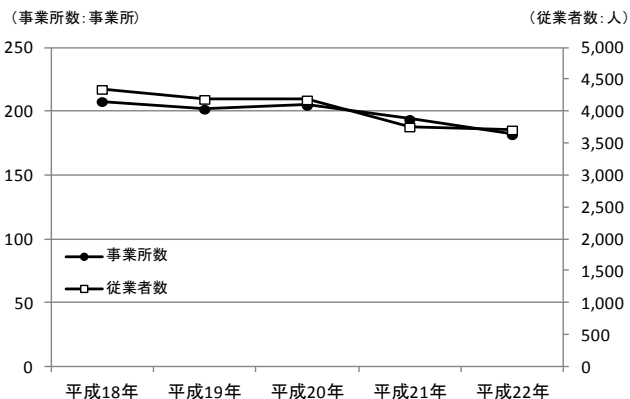


図 1-8 事業所数及び従業者数の総数の推移

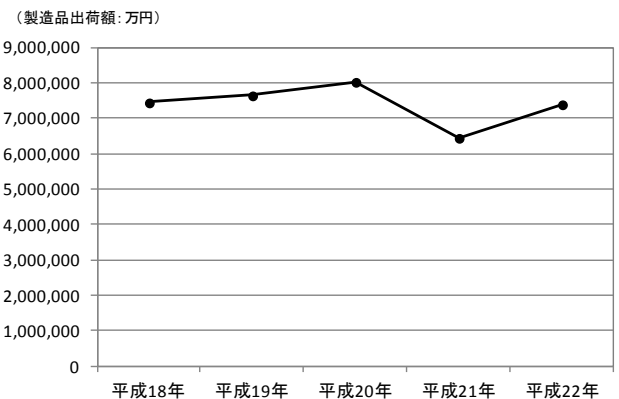


図 1-9 製造品出荷額の総額の推移

D. 商業

商店数、従業者数及び年間販売額は表 1-8 に示すとおりです。

平成 14 年から平成 19 年の 5 年間で、商店数は 121 店減少しており、従業者数も 428 人減少しています。しかし、卸売業の販売額の増加によって、年間販売額は約 51 億円増加しています。

表 1-8 商店数、従業者数及び年間販売額の推移

区分	平成14年			平成16年			平成19年		
	商店数	従業者数	年間販売額	商店数	従業者数	年間販売額	商店数	従業者数	年間販売額
	店	人	万円	店	人	万円	店	人	万円
総 数	947	5,925	12,831,634	901	5,655	14,077,307	826	5,497	13,342,901
卸売業	189	1,212	4,766,142	187	1,286	5,194,212	167	1,152	5,352,251
小売業	758	4,713	8,065,492	714	4,369	8,883,095	659	4,345	7,990,650

出典：商業統計調査

E. 観光

津島市内における観光客数は表 1-9 に示すとおりです。

例年、津島神社への観光客数が最も多く、年間 80 万人から 90 万人が観光しています。

表 1-9 観光客数の推移

観光地	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
総 数	1,414,545	1,536,123	1,654,199	1,684,695	1,378,099
尾張津島藤まつり	185,000	259,100	241,500	247,100	182,000
尾張津島天王祭	250,000	260,000	260,000	250,000	218,000
尾張津島秋まつり	30,000	15,000	35,000	13,000	35,000
津島神社	856,120	877,590	843,320	881,720	922,610
東公園グラウンド	49,467	47,407	53,516	65,561	-
地域文化広場	43,958	77,026	77,787	82,600	-
錬成館	-	-	143,076	144,714	-
津島市観光交流センター	-	-	-	-	20,489

出典：観光レクリエーション利用者統計（愛知県）

(3) 土地利用

土地利用の状況は表 1-10 及び図 1-10 に示すとおりです。

平成 19 年から平成 23 年の 5 年間で田畑が減少することに伴い宅地が増加しており、平成 23 年には宅地の面積が 33.3%となっており、田の面積が 33.2%、畑が 6.3%となっています。

表 1-10 土地利用の状況推移（各年 1 月 1 日現在）

年度	総数	田	畑	宅地	沼地	山林	原野	雑種地	その他
平成19年度	23,699,347	8,074,136	1,513,160	7,713,936	24,068	3,664	46,474	1,512,007	4,811,902
平成20年度	23,699,048	8,011,146	1,499,708	7,765,855	21,070	3,664	47,374	1,534,627	4,815,604
平成21年度	23,711,187	7,947,627	1,498,649	7,808,162	21,070	3,664	47,374	1,528,623	4,856,018
平成22年度	23,716,222	7,899,187	1,493,869	7,842,953	21,039	3,664	46,981	1,553,233	4,855,296
平成23年度	23,716,440	7,870,568	1,482,958	7,893,396	21,039	4,754	46,981	1,539,549	4,857,195

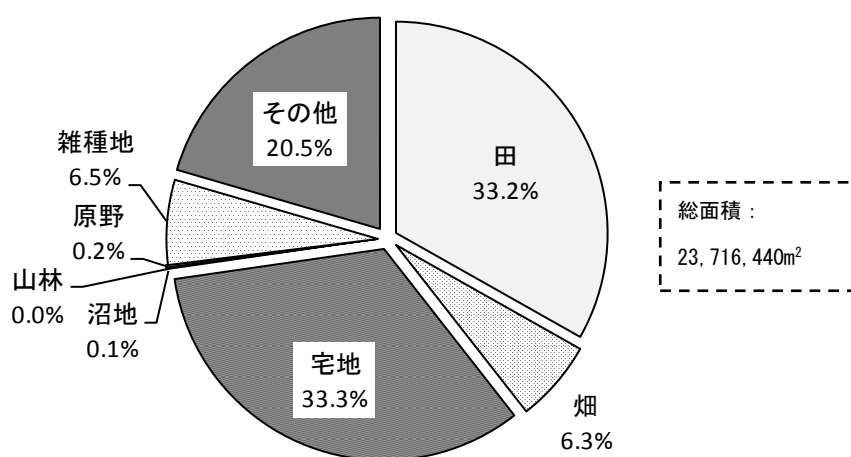


図 1-10 土地利用の状況（平成 23 年 1 月 1 日現在）

4 関連計画

(1) 第4次津島市総合計画

津島市では、平成23年度からはじまる「第4次津島市総合計画」を策定し、目標年次である平成32年までの10年間におけるまちづくりの目標、及びそれを実現するための様々な施策を体系的に示しています。

本計画との関連施策の抜粋を表1-11に示します。

表1-11 第4次津島市総合計画（関連施策の抜粋） (1/2)

項目	内容
1. 将来像	～人を育み 想いをつなぐ～ ともにつくろう 住んでみたくなるまち 津島
2. 目標年次	平成32年（2020年）
3. 基本構想	基本構想の施策体系は以下のとおりです。

表 1-11 第 4 次津島市総合計画（関連施策の抜粋） (2/2)

項目	内容
4. 人口指標 (基本計画)	<p>将来人口：66,000 人（平成 32 年（2020 年））</p> <p>「将来人口推計によると、平成 32 年（2020 年）には、約 61,200 人に減少することが予想されます。しかし、市民が暮らしやすい快適なまちづくりを着実に進めることによって、人口の維持をめざし、平成 32 年（2020 年）の将来人口を 66,000 人と設定します。」</p>
5. ごみ処理関連 (基本計画)	<p><重点戦略 3 快適で活力ある環境まちづくり> より抜粋</p> <p>○背景・ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「低炭素社会の実現に向けて、市民一人ひとりの生活様式や都市構造、産業構造の転換が求められています。」 ・「本市は、ごみの分別収集によるごみの減量化や市民による環境調査など、先進的な取り組みを行ってきた実績から、市民の環境に対する意識も高く、時代に対応した環境にやさしいまちづくりを一層推進します。」 ・「市民レベルでは、太陽光発電などの再生エネルギーの導入や生ごみのたい肥化などの取り組みを推進し、循環型社会の構築をめざします。」 <p>○重点戦略の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生ごみの分別回収とたい肥化、使用済食用油の回収と軽油代替燃料への活用、レアメタルの回収など、資源循環型の仕組みを構築します。」

(2) 津島市環境基本計画

平成 18 年度から平成 27 年度を目標期間に、「津島市環境基本計画－みんなで未来をつくらまい－」が、津島市長の委嘱を受けた公募の市民「津島市環境基本計画策定委員会」のボランティアにより策定されています。また、この計画は毎年度進捗状況のチェックを行い、さらに 3 年毎の見直しも設定しています。

この計画では、市民アンケートにより募った「環境目標」の内、意見の多い項目を計画の目標に盛り込んでおり、「【清潔】生活排水やごみが適正に処理され、快適で清潔な生活が出来る津島」もその一つとして採用しています。

本計画への関連施策の抜粋は以下の表 1-12 のとおりです。

表 1-12 津島市環境基本計画（関連施策の抜粋）

項目	内容
1. 環境目標	【清潔】生活排水やごみが適正に処理され、快適で清潔な生活が出来る津島（関連目標のみ抜粋）
2. 目標年次	平成 18 年度から 27 年度
3. 関連施策	<p>計画より抜粋</p>  <p>食品安全／ごみ分別</p> <p>安全な食品を適正な価格、近くの店で買うことができるまちであってほしい</p> <p>…という市民の声を実現します。</p> <p>食品の安全については、偏りのない正しい情報が市民に提供されることが大切です。そこで、食品の安全性や、環境に配慮しているお店や生産者などについての情報を紹介する「グリーンコンシューマーガイド」づくりに着手し、3年後（平成20年度）までに完成させることを目標とします。</p> <p>ごみの分別が適正に行われ、リサイクルが進んでほしい</p> <p>…という市民の声を実現します。</p> <p>津島市では平成15年に「ごみ処理基本計画」が策定され、公募の「ごみ処理市民委員会」が中心になって、プラスチックごみのリサイクルを実現しました。そこで引き続き、ごみ処理基本計画を市民の力で着実に実施します。特に生ごみリサイクルと事業系ごみの削減が大きな課題です。また、市民や事業者がリサイクルをより進めやすくなるように、2年後（平成19年度）までに、常設のリサイクルステーション（資源回収拠点）を設置することを目標とします。</p> <p>市民ができること</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グリーンコンシューマーガイドづくりに参加することで、環境にやさしいお店などを応援しましょう。 ●リサイクルステーションを活用したり、運営に参加することで、より多くの資源をリサイクルしましょう。 ●リサイクルも大切ですが、ごみを減らすことが何よりも重要です。 <p>市役所が行うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市民の自発的なリサイクル活動への支援を続けます。 ●グリーンコンシューマーガイドづくりのために、広報などによる支援を行います。 <p>市民が運営するリサイクルステーション（先進地の事例）</p>